

今回の区政会議で主にご意見をいただきたい項目

まず区役所より【資料2】を用いて簡潔にご説明いたします。

その後、グループ意見交換会において、説明内容と下記の○で囲んだ「現状」「課題」「対策案」「成果指標」を踏まえ、将来ビジョンの策定に向けてご意見をお願いいたします。

01 安全安心のまち ▶ 地域防災力の向上

現状

- 平成7（1995）年1月の「阪神・淡路大震災」や平成23（2011）年3月の「東日本大震災」、令和6（2024）年1月には「能登半島地震」等、大規模な地震が相次いで発生しており、近い将来、南海・東南海・南海地震や、これから連動した南海トラフにおける巨大地震が今後発生する確率が80%程度といわれています。
- また、阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助されなかった人の約8%が自助と共助で助けられました。一方、公約機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。
- 災害が発生した場合には「自分の命は自分で守る」「自分たちのちは自分たちで守る」という心構えをもって、公約機関がかけつけるまでの間、住民同士で助け合い、救出・救援・初期消火することが被害を最小限にするためには、大変重要となります。
- 自助・共助の重要性を理解してもらうため、平野区におけるリスクを踏まえた防災啓発を行っています。また、各種防災情報の発信や大和川氾濫時の洪水表示の取組等の啓発活動を実施しています。さらには、地域防災リーダーの連絡会議や研修を開催し、防災知識・技術の向上を図るとともに、消防署と連携して地域での防災訓練の実施支援を行っています。

課題

- 防災意識の「自助・共助」を推進していく必要があることから、住民同士の助け合いによる防災活動が行えるよう継続となる地域でのつながりを深めることが重要であり、多くの地域住民が参加する地域防災活動や自主防災組織等を主体となつて実施できるよう支援を強化していく必要があります。
- 近い将来に発生される大規模地震や水害などの自然災害に備え、日頃から顔の見えあふ関係構築し、地域コミュニティの強化を図る必要があります。
- 近年、多発する豪雨・大雨により甚大な被害が発生し、多くの高齢者や障がいのある人等、自力避難が難しい要支援者などために個別避難計画の作成が求められています。

救われた方の割合

兵庫県平野郡地区における震災に関する調査報告書（公益社団法人日本防災学会）をもとに作成

対策案

自主防災組織による活動の支援

地域住民が防災に高い関心を持てるよう、地域防災リーダーが中心となり、消防署とも協力しながら地域における自主防災組織等による主体的な取組を支援することで、防災意識の普及に努めます。

防災意識の向上

- 地域住民が「自らの命は自らが守る」との意識を持ち、災害時に適切な避難行動ができるよう情報発信や防災訓練の実施支援、出前講座などの取組を継続し、地域防災力の向上に取り組みます。

成果指標	指標	目標値
防災情報や防災訓練等の取組を通じて、防災意識が高まったと感じている割合		令和11（2029）年度末までに、防災訓練やイベントでのアンケート調査で70%以上

地域での防災訓練

学校での防災訓練

（参考）現行の将来ビジョンとの違い

現行の将来ビジョン

施策の方向性（柱）	具体的な取組項目
安全安心のまちづくり	防災意識の普及啓発
	地域住民との協働や警察との連携
	活発な地域活動への参加
	未利用地の有効活用
みんなで支えあう福祉のまちづくり	効果的な地域支援体制の確立
こどもが元気で育つまちづくり	切れ目のない支援体制の充実 こどもの「生きる力」の醸成



新たな将来ビジョン

施策の方向性（柱）	施策
安全安心のまち	地域防災力の向上
	地域防犯力の向上
	地域コミュニティの活性化
	魅力あるまちづくりの推進
みんなで支えあう福祉と健康のまち	地域福祉の推進 健康づくりの推進
こどもが元気で育つまち	子育て支援の充実 教育支援の充実